

四 半 期 報 告 書

(第92期第3四半期)

ア ッ ギ 株 式 会 社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
2 【その他】	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年2月5日

【四半期会計期間】 第92期 第3四半期
(自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日)

【会社名】 アツギ株式会社

【英訳名】 ATSUGI CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 工藤 洋志

【本店の所在の場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【電話番号】 046 (235) 8104

【事務連絡者氏名】 経理部長 古川 雅啓

【最寄りの連絡場所】 神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号

【電話番号】 046 (235) 8104

【事務連絡者氏名】 経理部長 古川 雅啓

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第91期 第3四半期 連結累計期間	第92期 第3四半期 連結累計期間	第91期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	17,909	18,424	23,281
経常利益 (百万円)	1,252	896	1,105
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	815	658	674
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,182	2,246	615
純資産額 (百万円)	48,819	49,764	48,192
総資産額 (百万円)	57,674	58,662	57,163
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	49.69	40.58	41.17
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.4	84.6	84.1

回次	第91期 第3四半期 連結会計期間	第92期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	32.52	17.07

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部企業における収益・雇用環境が改善するなど、緩やかな回復基調が見られました。その一方で、米国および中国の経済・金融政策の動向や、東アジア地域における地政学リスクの高まりなどにより世界経済の不確実性が高まるなど、引き続き先行き不透明な状況で推移しました。

繊維業界においては、節約志向・生活防衛意識の高まりにより個人消費に大幅な改善は見られず、企業間競争が一段と激化するなど、厳しい環境にあります。

このような状況において当社グループは、2015年度から2017年度までの3年間を実行期間とする中期経営計画『ATSUGI VISION 2017』で掲げた「製造原価の低減」、「強いアツギブランドの構築」、「営業戦略の強化」、「海外販売の拡大」、「人事戦略の強化」の5つの課題への取り組みを更に推し進め、原料加工から最終製品までを一貫生産し販売する専門メーカーとしての特性を活かし、価格を上回る価値ある商品の企画開発と、グループ全社を挙げて効率性アップに取り組み、収益改善に努めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は18,424百万円（前年同四半期比2.9%増）、営業利益は686百万円（前年同四半期比39.5%減）、経常利益は896百万円（前年同四半期比28.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は658百万円（前年同四半期比19.3%減）となりました。

セグメント別の業績を示すと、次の通りであります。

[繊維事業]

レグウェア分野は厚手を中心としたプレーンタイツやリブソックスなどが好調に推移し、ファッション商品の伸び悩みをカバーし、同分野の売上高は15,247百万円（前年同四半期比2.7%増）となりました。

インナーウェア分野はスポーツインナー関連が順調に推移したほか、主力のブラジャーおよびショーツも好調に推移し、同分野の売上高は2,262百万円（前年同四半期比6.0%増）となりました。

これらの結果、繊維事業の売上高は17,509百万円（前年同四半期比3.1%増）、営業利益は316百万円（前年同四半期比57.6%減）となりました。

[不動産事業]

不動産事業は保有資産の有効活用などにより、当事業の売上高は479百万円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益は338百万円（前年同四半期比6.4%減）となりました。

[その他]

その他の事業につきましては、介護用品の市場環境の変化などにより、厳しい状況が続いております。一方で、太陽光発電による売電は順調に推移しました。これらの結果、当事業の売上高は434百万円（前年同四半期比0.4%増）、営業利益は30百万円（前年同四半期比30.6%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は58,662百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,498百万円増加いたしました。これは主に、投資有価証券の増加1,468百万円等によるものであります。

負債の部は8,898百万円となり、前連結会計年度末に比べ73百万円減少いたしました。これは主に、繰延税金負債の増加428百万円、未払法人税等の減少389百万円および通貨オプションの減少194百万円等によるものであります。

純資産の部は49,764百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,571百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益を658百万円計上しましたが、前期決算に係る配当金487百万円による減少や、自己株式の取得187百万円による減少およびその他の包括利益累計額の増加1,574百万円等によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は84.6%（前連結会計年度末は84.1%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた問題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は325百万円であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	39,103,900
計	39,103,900

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	17,319,568	17,319,568	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	17,319,568	17,319,568	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日 (注)	△155,876,121	17,319,568	—	31,706	—	7,927

(注) 平成29年6月29日開催の第91回定時株主総会により、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行い、発行済株式総数は155,876,121株減少し17,319,568株となっております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成29年9月30日の株主名簿により記載しております。

①【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 10,790,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 160,230,000	160,230	—
単元未満株式	普通株式 2,175,689	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	173,195,689	—	—
総株主の議決権	—	160,230	—

- (注) 1. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式162株が含まれております。
2. 「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株含まれております。
3. 平成29年6月29日開催の第91回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行いました。また、同定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で定款変更が行われ、単元株式数は1,000株から100株となっております。当該株式併合および単元株式数の変更は上記株式数には反映されております。

②【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
アツギ株式会社	神奈川県海老名市 大谷北1丁目9番1号	10,790,000	—	10,790,000	6.23
計	—	10,790,000	—	10,790,000	6.23

- (注) 1. 平成29年6月29日開催の第91回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行いました。また、同定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で定款変更が行われ、単元株式数は1,000株から100株となっております。当該株式併合および単元株式数の変更は上記株式数には反映されております。
2. 提出会社は、第3四半期会計期間において140,000株(株式併合後)の自己株式の市場買付を行っております。この結果、当第3四半期会計期間末日における自己株式数は、単元未満株式の買取および買増を含めて1,221,994株となっております。

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,219	9,002
受取手形及び売掛金	4,132	4,402
商品及び製品	4,553	4,632
仕掛品	1,953	1,900
原材料及び貯蔵品	499	536
繰延税金資産	361	281
その他	478	445
貸倒引当金	△8	△14
流動資産合計	21,190	21,188
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,513	5,505
機械装置及び運搬具（純額）	3,458	3,568
土地	16,310	16,308
建設仮勘定	94	44
その他（純額）	150	164
有形固定資産合計	25,526	25,592
無形固定資産	322	309
投資その他の資産		
投資有価証券	9,575	11,044
繰延税金資産	1	1
その他	546	526
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	10,123	11,571
固定資産合計	35,973	37,474
資産合計	57,163	58,662

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,334	2,651
未払法人税等	465	75
賞与引当金	121	38
関係会社整理損失引当金	39	25
その他	1,378	1,131
流動負債合計	4,339	3,922
固定負債		
繰延税金負債	1,037	1,466
再評価に係る繰延税金負債	1,850	1,850
退職給付に係る負債	1,384	1,330
その他	359	328
固定負債合計	4,631	4,975
負債合計	8,971	8,898
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,706	31,706
資本剰余金	9,345	9,345
利益剰余金	5,160	5,331
自己株式	△1,188	△1,376
株主資本合計	45,023	45,006
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,053	4,166
繰延ヘッジ損益	△209	△74
土地再評価差額金	△406	△406
為替換算調整勘定	606	932
その他の包括利益累計額合計	3,044	4,618
非支配株主持分	124	139
純資産合計	48,192	49,764
負債純資産合計	57,163	58,662

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	17,909	18,424
売上原価	11,752	12,581
売上総利益	6,157	5,842
販売費及び一般管理費	5,023	5,156
営業利益	1,133	686
営業外収益		
受取利息及び配当金	203	209
為替差益	—	45
その他	50	47
営業外収益合計	254	302
営業外費用		
持分法による投資損失	65	32
為替差損	15	—
租税公課	17	22
その他	36	37
営業外費用合計	135	92
経常利益	1,252	896
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	67	69
特別利益合計	67	70
特別損失		
固定資産除却損	20	18
投資有価証券売却損	0	—
特別損失合計	20	18
税金等調整前四半期純利益	1,299	948
法人税、住民税及び事業税	398	209
法人税等調整額	79	74
法人税等合計	477	283
四半期純利益	822	664
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	6
親会社株主に帰属する四半期純利益	815	658

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	822	664
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	530	1,113
繰延ヘッジ損益	21	134
為替換算調整勘定	△178	315
持分法適用会社に対する持分相当額	△13	18
その他の包括利益合計	360	1,582
四半期包括利益	1,182	2,246
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,180	2,232
非支配株主に係る四半期包括利益	1	14

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	825百万円	756百万円
のれんの償却額	24 "	24 "

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	493	3	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	487	3	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	16,980	495	17,476	433	17,909	—	17,909
セグメント間の内部売上高又は振替高	6	—	6	—	6	△6	—
計	16,987	495	17,482	433	17,915	△6	17,909
セグメント利益	748	362	1,110	23	1,133	—	1,133

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品の仕入、販売および太陽光発電による売電であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	繊維事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	17,509	479	17,989	434	18,424	—	18,424
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	—	2	—	2	△2	—
計	17,511	479	17,991	434	18,426	△2	18,424
セグメント利益	316	338	655	30	686	—	686

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、介護用品の仕入、販売および太陽光発電による売電であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日)
1 株当たり四半期純利益金額	49円69銭	40円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	815	658
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	815	658
普通株式の期中平均株式数 (千株)	16,418	16,214

(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、平成29年10月 1 日付で普通株式10株につき 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成30年2月5日

アツギ株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 神山宗武 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寶野裕昭 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアツギ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アツギ株式会社及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月5日
【会社名】	アツギ株式会社
【英訳名】	ATSUGI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 工藤 洋志
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	神奈川県海老名市大谷北1丁目9番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長工藤洋志は、当社の第92期第3四半期（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。